

「エルサレムの使徒会議 1」

2016年06月23日

使徒言行録 15章1節～5節。ある人々がユダヤから下って来て、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と兄弟たちに教えていた。それで、パウロやバルナバとその人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。さて、一行は教会の人々から送り出されて、フェニキアとサムリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝え、皆を大いに喜ばせた。エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

紀元48年、エルサレムで「使徒会議」が行われた。異邦人宣教を体験したパウロたち一行とエルサレム教会の使徒たちが一堂に会した会議である。教会で行われた最初の、言わば、国際会議で、教会の宣教に決定的な方向性を与えた。この会議の進行を読む度に、教会は聖霊の導きの中で、福音的に正されていくのだと感動を覚える。

パウロたちの宣教は異邦人たちに受け入れられ、彼らに聖霊が降った。この体験は大きな喜びで、福音は民族を超えるものであることを知らされた。ところが、エルサレム教会には、主イエスを信じる者になったけれども、ユダヤ教の枠から抜け切れない人々がいた。頭はクリスチャンであったが、ユダヤ教の教理、伝統に固く従っていたのである。彼らはエルサレムからシリア州の教会に下って行き、主イエスを信じる信仰によって救われていても、律法を守り割礼を受けなければ完全な救いには至らないと説いた。ただ、主イエスの十字架と復活を信じる者は救われると聞き、戒律からの解放を喜んでクリスチャンになった異邦人たちは困惑した。本山のエルサレム教会から来た人が律法を守り割礼を受けなければ、全き救いには至らないと言うなら、そうかも知れないと動揺し始めたのである。パウロとバルナバは、これらのユダヤ教クリスチャンとの間で激しい論争をしたが、彼らは頑強にユダヤ教の教理、伝統を守るべきであると主張した。二人は、この事態を憂慮し、自分たちの宣教が無意味になるのではないかと恐れた。

そこで、二人は仲間の者と一緒に、エルサレムに上り、使徒たちと協議し、福音の共通理解を得たいと考えた。一行は、アンティオキア教会から送り出され、フェニキアとサムリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝えた。聞いた者たちは、主イエスの福音は民族の壁を超えたものであることを知って非常に喜んだ。古代社会は激しい民族差別が見られ、そこに大きな悲劇が生じていた。差別を突き崩して、共に生きる福音を喜び合ったのである。

一行はエルサレムに到着すると、教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎された。神が自分たちと共にいて働かれたことを、詳しく報告した。宣教報告を聞いた人々は、主イエスの福音は、全ての人を分け隔てなく招くものであることを知らされ、驚いたであろう。ところが、ファリサイ派からクリスチャンになった人が数名立ち上がって、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言い張った。律法を遵守するファリサイ派の伝統に固執したのである。